

## 第 1 回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項について

区分	指摘事項	参照
流入負荷	流入負荷量について、きちんと確認する必要がある(中村委員)。	資料 2 - 1
	下水道など各排水処理施設の負荷量を確認したい(清家委員)。	
	自然系の内、山林系の割合について確認したい。汚濁負荷量の計算方法を確認したい(中村委員)。	
COD	昔と比べて、現在の COD の中身は分解しにくいものが増えてきて、指標性としての意義は薄れたと思う(中村委員)。	資料 2 - 2
	COD が指標であることは、少し問題があるのではないかと思う(各委員)。	
収支	宍道湖に入る汚泥負荷量、出る汚濁負荷量、堆積量について、測定結果を確認したい(吉田委員)。	資料 2 - 3
NP 比	NP 比について、流入と湖水を比較すると、湖水の方が低いので、磷が溶出していると想像できる(中田委員)。	資料 2 - 3
モデル	湖底からの溶出量について、シミュレーション結果を確認したい(中田委員)。	資料 2 - 4
	過去 10 年位で負荷を減らしてみた場合、どうなるか確認するとよい(中田委員)。	
	易分解有機物と難分解有機物の取り扱いについて確認したい(中田委員)。	
底泥負荷	湖底からの栄養塩の溶出状況の把握が非常に大事。調査状況やシミュレーション方法について確認したい(石飛委員)。	資料 2 - 4
情報収集	全国での研究や関係機関の研究の整理をすること(山室座長)。	資料 2 - 5
プランクトン	動物プランクトンについても十分な調査を実施して欲しい(中田委員)。	資料 2 - 5
	培養株等の保有・管理をお願いしたい(大谷委員)。	
全般	データ整理について、年平均値の推移のみではなく、例えば月毎に整理してはどうか(石飛委員)。	